

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100120		
法人名	有限会社 長野カイゴサービス		
事業所名	桜の園グループホーム		
所在地	長野市桜新町724		
自己評価作成日	平成21年7月21日	評価結果市町村受理日	平成21年10月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090100120&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流が運営推進会議を通して、ご意見、提案等を頂き、それを実行しています。歌のボランティアグループ等とも交流を深め、施設や利用者さんのことをご理解いただけるグループホームにしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所2年目であり、地域とのつながりや重度化への対応など、課題への取り組みが始まり、その道筋が見え始めている。運営推進会議を軸にして市との連携、災害対策、外出支援など課題解決の糸口を模索している。母体でもある病院が隣接しており、利用者やご家族から医療面での安心を得ている。居室は利用者のご家族で自由に部屋づくりをしており、各居室は個性的で、居心地よく馴染んで過ごせるようになっていた。病院での集団ケアから脱出して、個別ケアを目指して始めたグループホームであるので、利用者の思いや意向に寄り添い、尊厳を大切にケアを行っている。ケアサービスのコンセプトに「ゆっくり、のんびり、にっこり」を掲げ、声かけを大切に、安心して過ごしてもらえるよう努力している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1階ユニット)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
ユニット名(2階ユニット)						
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		3. たまにある				3. たまに
		4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が				
		2. 利用者の2/3くらいが				
		3. 利用者の1/3くらいが				
		4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念は管理者と職員が、共有しているつもりですが、日常の介護生活の中で、マンネリ化していくのではないかと思う。毎日の申し送りのとき、発表して改善を重ねている。</p>	<p>地域社会との繋がりを大切にした事業所独自の理念を掲げ、採用時や申し送り時に職員への共有化を図ると共に、訪問者にも目につく玄関等に掲示されていた。心安らかな一日になるよう支援している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地区として桜新町の方々が、話し合いの会とか童謡の会と少しずつ、試みや相談が進んでいる。</p>	<p>自治会に加入し、散歩時の挨拶、近くの公園での親しみのある交流、童謡の会のボランティアの受け入れ等、地域に溶け込む積極的な努力をしている。地区の夏祭りを通じた交流を計画中であり、今後への期待が得られた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>まだ勉強も経験も不足で相談を受けていない。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、区長さんのご協力を頂いて、少しずつ具体的に動き始めた。</p>	<p>運営推進会議の規則も作り、年6回の開催に向けて確実な歩みを始めている。構成員も充実しており、双方向的な会議となっている。この会議を最大限に活用して、事業所の諸々の課題解決への糸口にすることを望みます。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>まだ勉強も経験も不足で相談を受けていない。勉強も経験も不足で、相談したり、教えてもらいながらやっている状況です。</p>	<p>市の担当者と日頃から連絡しあうまでには至っていない。</p>	<p>運営推進会議に市の係長、包括支援センター職員が出席しているので、その機会を通じて現状を見てもらったり、運営に対する意見を聞く、課題の相談をするなど事業所からの積極的な働きかけを期待します。</p>
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>数ヶ月前に数回、玄関の鍵をかけ、深く反省をして、以後現在も鍵はかけていません。</p>	<p>採用時に身体拘束に関しての話があり、全職員への共有化が図られている。玄関は昼間は施錠してなく、見守りや連携プレーを大切にして対応している。</p>	

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が、かなり叩かれたりで、黒いあざが出来ますが、ご利用者の方にはありません。精神的な虐待については判断が難しいと思っています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に現在、権利が侵されていると気付いておりません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時によく説明し、契約書や重要事項説明書をお渡ししておりますが、トラブルはありません。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者ご家族の意見や要望を、貴重に思っています。外部や職員に発表の機会を工夫したいと思います。	面会時に健康状態や暮らしの様子を伝え、年1回の家族会や意見箱を活用してご家族等の思いを汲み取るよう努め、たより「ふれあい」も発行している。さらに苦情等を外部に言える機会があることをご家族等に繰り返し説明することを望みます。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見も機会があるごとに、取り上げて反映させるようにいたします。	管理者と職員とのコミュニケーションは良く、意見を言いやすい関係になっている。全職員が集まったの会議はなかったが、近々に職員の積極的な姿勢により、実現される運びとなっていることを伺った。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	色々と問題がありますが、職場環境が介護を向上させるのに大切と、整備に努力します。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	何とかケアの実際と力量を把握し、時間を作りたいと思っています。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、今のところやっておりませんが機会をみて、参加させてもらいたいと思っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで初期、スムーズになじめて、導入等に困ったことが無かったような気がします。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのところ初期に、ご家族が困ったり、不安になったりしたことは、無かったような気がします。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入段階で細やかな配慮がある。比較的に旨くやっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活一緒にやることで、お互いに助けたり助けられたりで、お互いに、支え合いの雰囲気が出来ている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族と馴染むようにして、家族と共に本人を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達がよく面会に来ている。関係の邪魔にならないように、まただまされないように注意している。	馴染みの知人や友人等が面会に来ている。これまで利用していた理容院に行ったり、家族の協力で墓参りもしている。職員だけでは懐かしい場所等へ出掛けることは困難も多いので、地域の人やボランティアの協力を得て、利用者の思いを実現させることも一考である。	

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろな場合があって難しい。孤立しないように気を配っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの退所は、2人でそれぞれ適切な支援者や医療機関に恵まれて特には支援していない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは様々で、中には対応に苦労している。何とか日々を過ごしている。	本人から聞いたり、生活歴を振り返ったりしながら利用者の思いや意向を把握するよう努めている。職員の思い込みでケアすることなく、利用者がどのように暮らしたいのかを常に気にかけて支援することを望みます。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて、また入所の経過について把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大体一人ひとりの暮らしかたは、それぞれ形が決まっているのが判ってきました。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記のそれぞれの人に合わせた介護計画を作っています。又見直しをしている。	計画作成担当者が本人やご家族の意向を踏まえて原案を作成し、ケアマネージャーが介護計画を作成している。設定期間ごとに計画の見直しをし、変化があった時は臨機応変の対応をしている。全職員への介護計画の共有化が図られている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの記録は、職員間で情報を共有して、実践や計画作成に役立てている。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく本人や家族の変化に応じて、出来るだけ応用がきくように心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を活かして、介護の内容を向上を目指しているけれども、なかなか旨く行かない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が隣であるために、受診がしやすい支援がしやすい。	ご家族の了解を得て、隣接する協力病院に受診している。緊急治療や入院、精神科も対応出来る利用者やご家族からの医療面での安心を得ている。外科や歯科はこれまでのかかりつけ医になっている。付き添いは都合により職員の代行もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	市民病院や協力病院とよく協力が取れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在、3つの病院と関係がよく取れている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いまだあまり末期の利用者が出ないので対策は立てていない。	これまでに該当者がなかったため、対応指針等は出来ていない。重要事項に「ご希望により最後の看取りをする。」となっているので、事業所の基本姿勢を確立することを期待します。	重度化や終末期は今後確実に起こることであり、将来に対して不安を持っているご家族や、今後の利用者も多いことであるので、事業所として対応出来ること、出来ないことを明確にして指針を作成することを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生の対策は不十分と考えられる。機会を作って勉強してゆく必要がある。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消化や避難対策は夜間の場合には、実際にあった訓練が必要と考えます。	消防署の協力を得て、年2回の昼間想定訓練を行っている。近隣は空き家や老人が多く、協力を得にくい環境であるが、近くに職員が居たり、隣接の病院職員の協力も想定している。	夜間一人で9名の利用者を避難させることは困難も多いので、自治会や地区の消防団との協力関係を築いておくこと大切である。階段を使って避難する2階部分もあるので、夜間想定を中心にイメージトレーニングを繰り返し行うことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に丁寧な言葉を使っていないけれども尊敬とか愛情などが感じられる。家族的な雰囲気を感じられる。	尊厳については理念にも掲げられ、愛情を持ち、尊敬する心を持って接することを心掛けている。個人の書類も他人に見られないよう名前を伏せるなどの工夫もしている。日々の言動については、第三者の評価を聞くことも一考かと思われる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、おおらかな気持ちで接して、自由な気持ちで発言し、自分で決められるように、配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ずしも希望通りとは出来ていなくても、その日とその人のペースを大切に、出来るだけ希望に沿うように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的な生活の中で、その人らしい、きちんとした身だしなみを心がけております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と利用者が一緒に作り、みんなで楽しく食べて、後片付けもやっています。一緒に生活している実感を感じます。	台所に入ってまでの調理はないが、食材の下準備、盛り付け、片付けなどを利用者の出来る範囲で職員と一緒にやっている。食材入手、献立は業者委託であるので、食材は厳選され、栄養面での不安はない。おやつは利用者と共に作り、食事時の会話もあり、楽しみながらの食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士献立でバランスの取れた食事をしていきます。特に水分摂取に気を遣っています。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて、適切に介助して口腔の清潔に努めています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘の予防のため、野菜食を多めにし、その利用者に合わせて、適時に誘導して排便を促しています。	排泄パターンを把握して、出来るだけトイレを利用するよう努めている。常時おむつを使用している利用者へ排泄の自立に向けた取り組みまでには至っていない。	おむつをしないですむ暮らしは、生きる意欲や自信、自尊心の回復に繋がるので全職員で目標を決め、共通認識を持って計画的に、可能性の高い利用者から順次、推し進めることを期待します。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜など食物に配慮し、運動も試み、適時排便誘導で習慣を作っていくように努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの身体的状態、習慣などにあわせて入浴を決めて、職員の都合は後にまわすように出来るだけ配慮をしています。	身体状況や習慣、希望に合わせて週2回、午後に入浴している。重度者には2人で対応し、事業所の浴室での入浴を楽しんでもらっている。菖蒲湯やゆず湯などの季節感のある入浴を取り入れると、さらに楽しめる入浴になると感じられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠は適度な運動と、安心した気分、休息を昼間から配慮し、夜ゆっくり眠れるように配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、目的、用法、副作用、を理解し症状の変化に注意し確認しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとや、自分の能力を發揮したり、おいしいものを食べたり、みんなと歌を歌ったりなどで、気分の転換を図っています。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誰か見守りが必要ですが、出来るだけ外室を心がけています。	車の通行が少ない住宅地にあるので、日常的に近隣での外出支援をしており、挨拶したり、公園での交流を行っている。花見、七夕、菊花展など、ご家族の協力を得ながらの外出も取り入れている。事業所の外に出るだけでも季節感を味わえ、その時の風、匂い、肌触りなど五感の刺激にもなるので、日常的な外出をさらに支援することを望みます。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	折があれば、お金を自分で払って買い物をしてもらいたいと思っていますが、色々と人に迷惑がかかりそうでいまだ実行しておりません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれの事情があって、難しいのでそれぞれの方の思い通りにしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間として、廊下のはずれを少し広くしました。そこは比較的、決まった人数がよく使っています。	台所、食堂兼居間はフロアーの連続性があり、調理の音や匂いが感じられた。季節に応じた飾り付けもあり、採光もよく冷暖房による温度調節もなされていた。外の景色は住宅街であり、屋根や壁で田舎暮らしの高齢者には多少の違和感はあると思われた。廊下隅の居間にはソファ、テーブルがあり、くつろげる空間になっていた。浴室は採光もよく、トイレは十分な広さがあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上から、少し難しい感じがします。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族が、考えて決めています。危険が考えられない限りなるべく尊重しています。	利用者のご家族で思い思いの居室作りをし、個性的で、味わいのある部屋になっており、居心地よく過ごせる空間になっていた。写真、タンス、飾り物など利用者の懐かしく、馴染んだ物が違和感なく置かれていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるように工夫したつもりです。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来るだけ努力はしているが、はかばかしくない。焦らずに少しずつ進めたい。	地域社会との繋がりを大切にした事業所独自の理念を掲げ、採用時や申し送り時に職員への共有化を図ると共に、訪問者にも目につく玄関等に掲示されていた。心安らかな一日になるよう支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流が始まって桜新町の人々も出入りが見られる。童謡の会の時は二階の人が一階におりて歌い楽しかった。	自治会に加入し、散歩時の挨拶、近くの公園での親しみのある交流、童謡の会のボランティアの受け入れ等、地域に溶け込む積極的な努力をしている。地区の夏祭りを通じた交流を計画中であり、今後への期待が得られた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	未だあまり働きかけはしていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は少し実地的な地域との交流のなるきっかけになる感じがしてきた。もっと頑張りたい。	運営推進会議の規則も作り、年6回の開催に向けて確実な歩みを始めている。構成員も充実しており、双方向的な会議となっている。この会議を最大限に活用して、事業所の諸々の課題解決への糸口にすることを望みます。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	もっと、積極的に色々と教わりたい。未だ改善しなければならないことが、たくさんあるような気がします。	市の担当者と日頃から連絡しあうまでには至っていない。	運営推進会議に市の係長、包括支援センター職員が出席しているので、その機会を通じて現状を見てもらったり、運営に対する意見を聞く、課題の相談をするなど事業所からの積極的な働きかけを期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は絶対にやらないと心に決め、共通認識を持っています。	採用時に身体拘束に関しての話があり、全職員への共有化が図られている。玄関は昼間は施錠してなく、見守りや連携プレーを大切にして対応している。	

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どうしても、西山の家へ暗くなって歩いて帰ると、ご機嫌が悪くなって、周囲の利用者や職員に暴力をふるう為、玄関のカギをかけて、離施設を防いだ。ご家族と話し合って少量の安定剤を飲んでいただくようにして暴力はなくなっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常的な生活のなかでは、なかなか見えないし話が出てこない。勉強が必要と考えます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に細かく説明をしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱その他色々の機会に聞き取って、反映するように心掛けています。	面会時に健康状態や暮らしの様子を伝え、年1回の家族会や意見箱を活用してご家族等の思いを汲み取るよう努め、たより「ふれあい」も発行している。さらに苦情等を外部に言える機会があることをご家族等に繰り返し説明することを望みます。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員の職員が集まるのが難しいので、仕事、仕事についてその都度聞き、反映させるようにしています。	管理者と職員とのコミュニケーションは良く、意見を言いやすい関係になっている。全職員が集まったの会議はなかったが、近々に職員の積極的な姿勢により、実現される運びとなっていることを伺った。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に心掛けて居ますが、お金がかかる事で旨くはゆきません		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は勤務の関係でなかなか難しい問題です。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時間がなくて旨く行かないのが実情です。今後努力します。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉は少ないが、態度や仕草で判ることが多く、特に初期にはそれらを通して、つながりをつけています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、よく話し合うことが大切で、特に初期は親しい印象を相互にもてるように、努力しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	難しい質問ですが、何とか出来ているようにおもいます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯掃除にと少しづつ一緒にやって、親しみを感じます。利用者で職員の関係は旨く行っていると思います。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支えています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よく続いています。職員は邪魔にならないように気を遣っています。	馴染みの知人や友人等が面会に来ている。これまで利用していた理容院に行ったり、家族の協力で墓参りもしている。職員だけでは懐かしい場所等へ出掛けることは困難も多いので、地域の人やボランティアの協力を得て、利用者の思いを実現させることも一考である。	

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	たえず気をつかって、お互いを仲良く親しい関係を支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も関係を保って行きます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや、希望など折に触れ、又はしっかりと本人から聞いて、把握をします。	本人から聞いたり、生活歴を振り返ったりしながら利用者の思いや意向を把握するよう努めている。職員の思い込みでケアすることなく、利用者がどのように暮らしたいのかを常に気にかけて支援することを望みます。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や直接聞いて、把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身の上話や、得意なことはよく話されます。引き続き今の心のうちも話してくれることがあります。現状把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況は変わることがありますので、家族とも連絡して、適した介護を相談し、模索しております。	計画作成担当者が本人やご家族の意向を踏まえて原案を作成し、ケアマネージャーが介護計画を作成している。設定期間ごとに計画の見直しをし、変化があった時は臨機応変の対応をしている。全職員への介護計画の共有化が図られている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々においても週においても記録をもとに、次の実践や計画を見直して居ます。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	規則の範囲内で柔軟に対応しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人々の御協力、団体、色々の会の御協力を戴いて楽しく豊かな支援を実現したいと思っています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の意向に沿って、かかりつけ医に受診するようにしています。その他は協力病院にかかっています。	ご家族の了解を得て、隣接する協力病院に受診している。緊急治療や入院、精神科も対応出来て利用者やご家族からの医療面での安心を得ている。外科や歯科はこれまでのかかりつけ医になっている。付き添いは都合により職員の代行もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はパートですが、毎日来て心身の状況をみて診療指導連絡などに努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	未だ例は少ないですが、非常にスムーズに入院、退院ができました。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、重症になったり、末期になった人がいません、心の用意はしています。	これまでに該当者がなかったので、対応指針等は出来ていない。重要事項に「ご希望により最後の看取りをする。」となっているので、事業所の基本姿勢を確立することを期待します。	重度化や終末期は今後確実に起こることであり、将来に対して不安を持っているご家族や、今後の利用者も多いことであるので、事業所として対応出来ること、出来ないことを明確にして指針を作成することを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	なかなか、難しい場面ですから機会があるごとに勉強して、実践力をつけるよう努めます。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応も、実践・訓練をしていますが自信がありません。近隣も空き家や老人ばかりですので頼りには出来そうにありません。避難が勢一杯です。	消防署の協力を得て、年2回の昼間想定の実践を行っている。近隣は空き家や老人が多く、協力を得にくい環境であるが、近くに職員が居たり、隣接の病院職員の協力も想定している。	夜間一人で9名の利用者を避難させることは困難も多いので、自治会や地区の消防団との協力関係を築いておくこと大切である。階段を使って避難する2階部分もあるので、夜間想定を中心にイメージトレーニングを繰り返すことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、心がこもった丁寧な言葉を使うように注意しています。親しさがあり、丁寧という言葉は難しい感じです。	尊厳については理念にも掲げられ、愛情を持ち、尊敬する心を持って接することを心掛けている。個人の書類も他人に見られないよう名前を伏せるなどの工夫もしている。日々の言動については、第三者の評価を聞くことも一考かと思われる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃、心掛けて居ますが、大体うまくいって居るように思います。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者の気分や都合を第一にして、職員の都合は後回しにしております。希望に添うように心掛けております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特別にはおしゃれはしていない、日常生活の中で、しっかりした服装を大切にしている。比較的、良くできていると思います。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に作っている。其れを職員と一緒に食べるのが楽しみである。しかし利用者がのどにつかえないように、見守りが必要である。楽しみの中にも緊張した時間である。	台所に入ってまでの調理はないが、食材の下準備、盛り付け、片付けなどを利用者の出来る範囲で職員と一緒にやっている。食材入手、献立は業者委託であるので、食材は厳選され、栄養面での不安はない。おやつは利用者と共に作り、食事時の会話もあり、楽しみながらの食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で毎日給食がバランスよくおこなわれている。水分については職員が気を配って飲んで頂いている。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりについて、清拭について気を配り、良くできない人には介助をしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自力で出来るように促し、オムツ使用はしない方向で支援している。	排泄パターンを把握して、出来るだけトイレを利用するよう努めている。常時おむつを使用している利用者へ排泄の自立に向けた取り組みまでには至っていない。	おむつをしないですむ暮らしは、生きる意欲や自信、自尊心の回復に繋がるので全職員で目標を決め、共通認識を持って計画的に、可能性の高い利用者から順次、推し進めることを期待します。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食物繊維の多い野菜を取り、排便の時間習慣にも気を配っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで入れる人はなかなか少ない。なるべく本人の希望や体調に合わせた支援をしている。	身体状況や習慣、希望に合わせて週2回、午後に入浴している。重度者には2人で対応し、事業所の浴室での入浴を楽しんでもらっている。菖蒲湯やゆず湯などの季節感のある入浴を取り入れると、さらに楽しめる入浴になると感じられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日によって体調が違うので、無理をしないように声かけをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、目的、用法、副作用をよく理解して使用しその効果も出来る範囲で観察する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除その他、レクリエーションなど、無理のない範囲で役割をもって頂き、役割を持つ喜びを感じて頂いている。		

桜の園グループホーム評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出は歩いたり、車椅子に乗ったりで大変喜ばれる。また町の人との交流も見られる。地域の人と楽しく話も成立して、認知症の理解をしていただくチャンスである。</p>	<p>車の通行が少ない住宅地にあるので、日常的に近隣での外出支援をしており、挨拶したり、公園での交流を行っている。花見、七夕、菊花展など、ご家族の協力を得ながらの外出も取り入れている。事業所の外に出るだけでも季節感を味わえ、その時の風、匂い、肌触りなど五感の刺激にもなるので、日常的な外出をさらに支援することを望みます。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つ事で、社会的な自覚を少しでも高めてほしいが、人に迷惑にならないかと心配。まだ、あまりやっていないのが実情です。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙は、各人さまざまで無理して勧めたりもしていません。住所の確認などは手伝っています。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>既に出来上がっている建物を変えたりすることは難しく、また特には必要も感じて居ません。居心地よく生活ということでは、隣の多目的ホールが用意してあります。</p>	<p>台所、食堂兼居間はフロアーの連続性があり、調理の音や匂いを感じられた。季節に応じた飾り付けもあり、採光もよく冷暖房による温度調節もなされていた。外の景色は住宅街であり、屋根や壁で田舎暮らしの高齢者には多少の違和感はあると思われた。廊下隅の居間にはソファ、テーブルがあり、くつろげる空間になっていた。浴室は採光もよく、トイレは十分な広さがあった。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下の西の端を少し大きくして、長椅子や机をおいたりして、数人が何時も歓談している感じです。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個室の備品は、本人の好みや家族が決めています。危険と思われる物については相談しております。</p>	<p>利用者のご家族で思い思いの居室作りをし、個性的で、味わいのある部屋になっており、居心地よく過ごせる空間になっていた。写真、タンス、飾り物など利用者の懐かしく、馴染んだ物が違和感なく置かれていた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの考えで安全で、楽しく、心安らかに生活を過ごしていただきたいと思えます。</p>		